

◆体力向上に『歩いて登下校ゾーン(WZ)』を設定

毎日20分歩いて登校する子どもと、車で送迎される子どもとは、年間およそ133時間の運動時間の差（登校200日の場合）が生まれます。大崎町教育委員会では、大崎町の子どもの運動時間を少しでも確保したいという思いで、『歩いて登下校ゾーン（ウォーキングゾーン：WZ）』を新年度から学校ごとに設定することにしました。子どもたちが安全に歩いて登下校できる区域を設定することで、地域の方からの登下校時の見守りを行いやすく、そして『歩く』という運動時間を増やすことにつながると考えました。学校ごとに設定する区域はちがいますが、全校で取り組み、体力向上につなげたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



◆小中学校の机・イスの配布について

平成28年7月～8月に町内の小中学校の児童生徒用の机・イスを購入します。そこで、古くなった机・イスを住民の皆さまへ無料配布します。ご希望の方は、申込用紙にご記入のうえ、教育委員会管理課までご提出ください。

なお、申込用紙はホームページからダウンロードしていただくか、教育委員会管理課でお渡しします。
【提出期限】平成28年5月10日（火） 【提出先】教育委員会管理課

まぶい窓おえの庭

『お口は健康の入り口』

No.36 上床歯科医院 上床 義人

私の生まれ育ったこの町で開院して35年になりました。当初は歯科医不足で、毎日夜遅くまで診療しなければ追いつかないほど、町民のお口の中は悲惨なものでした。大人はもちろん、2・3歳の幼児からむし歯だらけという状況でした。子どもたちの健診をしながら、これは大変だ、どうにかしなければという気持ちで頑張ってきました。

その後、学校・行政・歯科医師会の歯科保健への懸命な啓発と実践により、確実に成果が見られるようになり、家庭での意識の向上が図られることで、近年子どもたちのお口の中は見違えるほど綺麗になってきています。

しかし、データ上では大崎町は、子どもたちのむし歯保有率は県内ワースト3に入ることもあるくらいの低レベルにあります。私たちの努力不足もありますが、やはり本質的には家庭の意識にかかっていると思います。

『子は親の背中を見て育つ』とよく昔から言われます。生活習慣は親から多大な影響を受けます。お口の管理も同じです。子どものときに染みつけた習慣は大人になってからも続き、その後その子どもにまで続くこととなります。いかに若年期の習慣づけが大事かということです。学校健診や診療を通じて町内の子どもたちと接するときに、大人は、日本の将来を背負う『宝』に、健やかな未来を与えなければならないという使命を果たす『義務』があるように思います。

今日では、むし歯や歯周病にならないために、歯科医院に行くことはもう常識だ、という時代になりつつあります。家庭と『かかりつけ歯科医』が二人三脚で、子どもたちが『一生涯自分の歯で』を達成できるように、共に努力していけたらと思っています。

『予防にまさる治療なし』